

中国ブロックにおける社会資本整備重点計画 に係る有識者等との意見交換について

平成28年2月15日

■ 第1回中国ブロックにおける社会資本整備重点計画有識者会議

開催日：平成27年12月7日（月）

分野	意見内容	対応
メンテナンス	<p>・基本戦略1について、国の計画では集約・再編を含めた既存施設の有効活用がいわれている。今ある老朽化した施設を全てメンテナンスするわけではなく、必要なものに重点化すること。「戦略的メンテナンス」の何が「戦略的」なのかが分かるような表現をされるべきではないか。基本戦略の自身には集約・再編という言葉があるが、表題にも入れていただかないと誤解を生むおそれがある。</p>	<p>◆基本戦略1の表題を「<u>集約・再編を含めた既存施設の戦略的メンテナンス</u>」とする。</p>
道路整備	<p>・中核都市圏の形成のため、都市圏域間の時間距離短縮、物流をスムーズに行う上で必要な自動車専用道路整備を二つ申し上げると、境港と米子を結ぶ自動車専用道路。また、米子周辺、斐川周辺に産業立地を進めており、斐川から境港に物を運ぶため、現在は宍道湖・中海南側の山陰道を利用しているが、北側に境港と出雲を結ぶ道路が整備されることが重要と考えている。</p>	<p>◆産業の活性化や都市間の多様な連携を支える自動車専用道路の必要性について、基本戦略3・4に記載。</p> <p>【基本戦略3】多極分散型の都市構造である中国ブロックが、人口減少社会においても持続的に発展していくため、<u>重層的かつ強靱な「コンパクト＋ネットワーク」の形成を図る。</u></p> <p>【基本戦略4】<u>高規格幹線道路のミッシングリンク解消…、臨港道路整備による港湾と高規格幹線道路とのシームレスな連携など、基幹交通ネットワークの強化、既存施設の機能強化や高度化を推進する。</u></p>

分野	意見内容	対応
観光交流	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資本の領域でも地域住民の関わりが身近にあり、国が地域を育てるという視点が必要ではないか。観光についても、観光インフラに関することが中心で、クルーズ客船が寄港したときのおもてなしは誰がするのか。観光プロモーションは誰がするのか。観光交流の推進とあるが、それは誰がするのかといったところで地元住民、民間に国が少しずつ権限を委譲していく姿勢が見えないと厳しいのではないか。 ・都市に道をつなげる、観光スポットについても何もなくても人が集まるような箇所が挙げられており、強いところをより強くという印象を受ける。有名な拠点の周辺にある資源も拾い上げるように計画に盛り込んでもらえたらよい。地元の産業を知り、どのような人が住んでいて、どのような風になっていくのかまでもを匂わせていただくような戦略にしていたければよい。 	<p>◆基本戦略4に以下内容を記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然等の魅力ある地域資源が多数存在しており、それらの地域資源を活かした地域活性化を図る ・これらの取組を推進することで、産業集積や多様な地域資源といった中国ブロックの強みを強化しつつ活力を生み出し、それを地域全体に伝搬させることで、<u>持続的に成長する中国ブロック</u>を目指す。
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資本整備に関わる多様な人材の確保・育成として具体的な取組が優秀な若手技術者と女性に関するものだけだが、もっと多様性があっても良いのではないか。 ・文科省のCOO+プロジェクト等で各県が頑張っておられて、地元では就職率を高める取組が始められている。そのような動きとこの計画がうまくマッチングさせるような施策が必要ではないか。 ・若手への教育には、教育する側であるシニアからの技術継承が重要であり、技術継承の仕組み等に関する記述があればよい。 ・高齢者の人材活用が重要であることを記述いただけたらよい。 	<p>◆人材育成について基本戦略6に以下内容を記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手技術者の養成のため、<u>技術者派遣や講習会の開催等により、企業技術者OBやシニア世代からの技術継承</u>を図る。 ・優秀な若手技術者等が早期に活躍できる環境整備を促進するとともに、<u>建設業への入職意欲に働きかけるため、産学官の連携</u>…し、中国ブロックに所在する建設産業の関係者が一体となって、各団体等の取組に係る情報の共有及び継続的・効果的な情報発信を図る。

分野	意見内容	対応
その他	<p>・予算を獲得し、事業を進めるというフィジカルプランニングにとどまっている。インフラストラクチャプランニングとマネジメントの視点、どのように運営するかという視点が少し弱いのではないか。</p> <p>・多くの自治体で「小さな拠点」そのものが理解されていない状況である。拠点はどのくらい大ききで、どのような拠点が分かっていないというのが地方の状況であると感じた。その中で多かったのが、拠点を作っただけ、デマンドバス等ネットワークを形成するということがあるが、誰が運営するのかということと戸惑いがある。</p>	<p>◆本計画第4章の「計画を推進するための方策」に以下内容を記載。</p> <p>3. <u>社会資本整備や維持管理・運営への多様な主体の参画と透明性・公平性の確保</u></p> <p>・「公共事業の構想段階における計画策定プロセスガイドライン」をはじめとするガイドライン等に基づいた住民や施設の利用者を含めた多様な主体の参画の推進。</p> <p>◆基本戦略3に「小さな拠点」について要旨記載。</p> <p>・中山間地域等において…商業・医療等の生活サービス機能が存続が懸念される。このため、道の駅等を活用して、地域の合意に基づき生活サービス機能を集約し、集落と交通ネットワークで結ぶ「小さな拠点」の形成を推進する。</p> <p>◆本計画第4章の「計画を推進するための方策」に以下内容を記載。</p> <p>3. <u>社会資本整備や維持管理・運営への多様な主体の参画と透明性・公平性の確保</u></p> <p>・NPOや地縁組織等の多様な主体の参画に資する方策等の検討・推進。</p>

■有識者ヒアリング整理結果

○有識者からの意見の聴取経緯について

- ・平成27年1月から6月にかけて広域地方計画と社会資本整備重点計画についての考え方をヒアリングし、社会資本整備に関する内容について抽出して整理した。
- ・ヒアリング対象は、学識者43名及び経済界など126名。
学識者は主に管内の大学の学長や教授など
経済界などは、地方経済団体の長、製造業や運送業などの社長等及び各種団体(観光関係者など)

社会資本整備重点計画に関わる意見

基本戦略への反映	主な意見	意見数
	1 ストロー効果、人口流出等、地域の衰退に対する総合的な対策	5
	2 機能転換等による既存施設の有効活用	4
	3 長期的視野での社会資本整備のコスト最適化	3
	4 既存のインフラの廃止も含めた社会資本整備の効率化、合理化	2
	5 「コンパクト＋ネットワーク」実現のための目指すべき全体像の明確化	2
	6 インフラの長寿命化を推進するための財源確保	1
	7 少子高齢化に向けて持続性を持たすインフラ整備	1
	8 山陰、瀬戸内、四国が一体となった地域振興	1
	9 社会資本整備を担う建設業者の雇用確保	1
	10 社会インフラは一つのまとまった圏域をネットワークしながら組み立てて行くべき	1
重点目標1への反映	主な意見	意見数
	1 社会資本の老朽化対策・適切な維持管理の推進	8
	2 メンテナンスをはじめとした社会資本を支える人材の確保・育成	6
	3 国から地方自治体へのメンテナンスに関する技術支援	2
	4 社会資本整備に関する新技術の開発・導入	2
	5 維持管理にかかるトータルコストの平準化	1
重点目標2への反映	主な意見	意見数
	1 安全で安心して暮らし続けるための災害に強いまちづくり	11
	2 治水対策や高潮等による浸水対策	9
	3 災害発生時等のリダンダンシーの確保	8
	4 ハード整備とソフト施策を組み合わせた災害対策	4
	5 地震に対し、社会資本の耐震化の推進等による防災・減災対策	4
	6 地域防災力の強化のためソフト施策の推進	4
	7 地域防災力を高める道路ネットワーク整備	3
	8 集中豪雨等による土砂災害への防災・減災対策	2
	9 災害発生時における正確な情報提供	2
	10 交通安全対策の推進	2
	11 非常時の活用に備えた港湾の整備	2
	12 大規模広域災害発生時における他地域への支援	1
	13 津波対策の推進	1
	14 災害に対する住民の意識啓発	1

重点目標3 への反映	主な意見	意見数
	1 道路ネットワークを活用した広域的な都市間連携による生活サービスの享受	21
	2 コンパクトシティの形成による都市機能の強化	14
	3 中山間地域等における「小さな拠点」の形成	12
	4 生活道路の整備や幹線道路等の道路ネットワーク整備	8
	5 交通インフラの強化と合わせた公共交通機関の利便性の向上	7
	6 道路改良、ICTの活用や自転車利用への転換等による渋滞解消	7
	7 都市と中山間地域等を結ぶ道路ネットワーク整備	5
	8 人口減少、高齢化の進行に対応した郊外団地等の再生	2
	9 高速道路を利用した拠点づくり	1
	10 地域コミュニティの再構築のための多世代型公営住宅の整備	1
	11 クリーンエネルギーとして自転車利用の促進	1
重点目標4 への反映	主な意見	意見数
	1 山陰道等のミッシングリンクの解消	28
	2 物流・人流機能強化のための港湾・空港と道路ネットワーク等の一体的な整備	22
	3 地域資源を活用した観光振興とそれを支える交通インフラの整備	18
	4 産業活性化のための道路ネットワーク整備	14
	5 物流の効率化のため、高速ICへのアクセス道等の整備、渋滞対策	14
	6 物流・人流機能強化のための港湾・空港の整備	11
	7 山陰と山陽を結ぶ道路ネットワークの整備・活用	8
	8 案内標識等の多言語化による海外旅行客の受入体制の整備	6
	9 観光資源として親水空間の整備・活用	6
	10 クルーズ振興のための受入態勢の整備	5
	11 サイクリングロード等の整備	4
	12 歴史的風致を守るための無電柱化等の道路整備	4
	13 地域再生の拠点としての道の駅の活用	3
	14 線路による地域の分断の解消	1
計画を推進する ための方策への 反映	主な意見	意見数
	1 他省庁と連携した効率的な社会資本整備	9
	2 住民等の社会資本の整備・維持管理への参加	5
	3 国と地方自治体が連携した効率的な社会資本整備	4
	4 官民連携による効率的な社会資本整備・活用	3
	5 適切な事業評価による社会資本の整備の推進	3
	6 社会資本整備の推進に理解を得るための情報発信	2
計画全般 について	主な意見	意見数
	1 選択と集中の徹底	7
	2 必要な社会資本整備の着実な実施	2
その他	主な意見	意見数
	1 観光振興のため、高速道路の無料区間についてはその旨をPR	1

■有識者ヒアリング整理結果(主な意見の抜粋)

基本戦略への反映	主な意見
1	ストロー効果、人口流出等、地域の衰退に対する総合的な対策 ・幹線道路には、経済波及効果もあるが吸収効果が大きいことを覚悟してそのことを事前に講じておかないと一極集中はますます進む。 ・企業誘致だけでなく、地元企業の育成に繋がるインフラ整備が必要。等
2	機能転換等による既存施設の有効活用 ・投資規模を抑えた上で、既存施設をいかに有効活用すべきかを念頭に、延命化などによる対応を考えるべき。 ・既存インフラに新しい役割を与えることが必要。等
重点目標1への反映	主な意見
1	社会資本の老朽化対策・適切な維持管理の推進 ・持続的な発展のために、災害に強い地域づくりやインフラの適切な維持管理が必要。 ・老朽化した橋や道路の点検、補修の徹底。等
2	メンテナンスをはじめとした社会資本を支える人材の確保・育成 ・国民の生命を守ると共に、経済活動支援、地域活性化支援、生活上の利便性・快適性向上支援、諸外国との交流支援等に不可欠なインフラ整備を行うことに尽きる。そのためには優秀な働き手の確保が極めて肝要である。 ・住民を含めた地域のインフラ整備、効率的インフラの維持管理と技術者の育成が重要。等
重点目標2への反映	主な意見
1	安全で安心して暮らし続けるための災害に強いまちづくり ・災害を契機とした人口流出を防ぐため、災害に強い街づくりが必要。 ・工業等、産業面での交流には、インフラ整備が重要。加えて、地震や自然災害による被害が少ないことも重要で、そのような国づくりが必要。等
2	治水対策や高潮等による浸水対策 ・H25豪雨(山口県)のように集中的、局所的に豪雨が降るようになったので、河川整備の考え方を改め全体的に強靱化に取り組む必要があるのではないか。 ・洪水等によって企業活動が停止しないように防災・減災を進めて欲しい。等
3	災害発生時等のリダンダンシーの確保 ・災害対応、特に減災と速やかな救援と復旧も盛り込むべき。特に南海トラフ地震に対して、拠点への複数ルート整備が必要。 ・南海トラフ等の地震により瀬戸内側が寸断された場合が不安。万が一災害が起きたときの受け皿としての日本海側の基盤が弱いと考えている。等

重点目標3 への反映	主な意見
1	<p>道路ネットワークを活用した広域的な都市間連携による生活サービスの享受</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山陽・山陰を結ぶ南北高速自動車道及び一般国道の安全性・高速度化の向上、幹線道の拡充による山陽側都市と山陰側都市の機能的融合が必要。 ・中海・宍道湖・大山圏域におけるストック効果を最大化するためには、「圏域への集中的な投資」と「圏域外とのネットワーク(交通網、情報通信網)」のインフラ整備を進めるべき。等
2	<p>コンパクトシティの形成による都市機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトコアシティ形成のため、コアとなる施設を再開発により整備し、買い物、医療、福祉、生活サービス機能等集約し、若者、ミドル、シニア層が車を使わず暮らせるまちづくりを行う。 ・コンパクト化は社会資本の無駄排除と効率化に繋がる。一方、取り残された地域はネットワークで支える。適切な概念と考えている。等
3	<p>中山間地域等における「小さな拠点」の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県境など行政区域を越えた中山間地対策として、高速道路等を活用するとともに行政サービスや防災拠点機能などを「道の駅」に持たせることが必要。 ・中山間地域等の集落の集約などが必要。集約した集落と中核都市をネットワークで結び、中核都市で受けるサービス(医療、福祉、教育等)が集落でも受けられるシステムを整備することも大切。ネットワークを形成するための道路等の基盤整備は必須。等
重点目標4 への反映	主な意見
1	<p>山陰道等のミッシングリンクの解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環日本海国土軸構想基軸に拠点間交流の充実を図り、地域の特性を活かした文化、伝統、資源等を国内外に周知する。それには、道路はじめ公共交通の充実、特に山陰道の整備が不可欠。 ・東アジアとの交流連携や日本海側地域での連携のためにも山陰近畿道等の高速交通基盤の整備が必要。等
2	<p>物流・人流機能強化のための港湾・空港と道路ネットワーク等の一体的な整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船舶の大型化などに対応した港湾設備の充実と高速道路の充実による、港までの出荷の円滑化が必要。 ・国際競争力のある産業の振興・育成のため、国際物流の基盤整備(港湾の高機能化、アクセス道路の整備)が必要。等
3	<p>地域資源を活用した観光振興とそれを支える交通インフラの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光資源を活用したインバウンド観光振興により交流人口を拡大。 ・観光振興のため、地域独自の文化歴史遺産(資産)を結ぶネットワークとして道路が必要。等
計画を推進するための方策への反映	主な意見
1	<p>他省庁と連携した効率的な社会資本整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方が生き延びる為に必要な道路という視点で、関係の省庁と連携して整備を推進してもらいたい。 ・効率的にインフラ整備を進めるには、縦割り行政では物事は進まないの、トータルで管轄する役所の司令塔が必要。等
2	<p>住民等の社会資本の整備・維持管理への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラの管理に市民を巻き込むソフト施策が必要ではないか。 ・公共事業の合意形成プロセスが必要。(住民がかかわることで自治意識が向上する)等